卓　　話

平成 27 年 5 月 26 日

『 中核充填所について 』

篠田たつゑ会員

今日は、私の会社についてお話をさせていただきます。私の会社は、岐阜市高野町に本社、揖斐郡大野町に大野営業所がございます。4P の位置です。5P の東海縦貫道 MGA ロードも 28 年に開通する予定になっており、交通網も日々、充実してきている場所にあります。今日はその大野営業所のＬＰガスの充填設備に関してお話しさせていただきます。

こちらに、全国中核充填所マップを用意しました。中核充填所とは災害時において、全国津々浦々まで着実に LP ガスを供給できるよう、全国に 342 か所、経済産業省に指定されました LP ガスの充填設備のことです。中核充填所に指定されるには、国から設備導入費用に関しての一部補助を受ける代わりに、一定の役割・義務を負うことになります。

23 年 3 月に発生した東日本大震災において、LP ガスが災害時に利用できるエネルギーであることが立証されましたが、多くの課題も見つかりました。津波により LP ガス消費者 404 万戸のうち、約 16 万戸が全半壊し、約 20 万本の LP ガス容器が流出しました。LP ガス事業者自体も、5,233 か所のうち、280 か所が全半壊したことから、供給活動に影響がでました。このような経験から、わが社では災害時に被災地および避難所等に LP ガス供給が迅速かつ確実に供給できるよう、いろいろな設備を揃えています。

1.非常用発電機

自社が貯蔵する LP ガスを燃料とする自家発電設備により、電力供給網が被災により遮断された場合においても、LP ガスの充填をはじめとした事業を一定期間継続できる電力の確保が可能です。

2.オートスタンド

ガソリンの確保が困難になった状態でも、容器配送が停滞しないよう LP ガス仕様の配送用トラック・保安、配送用車両として軽バン、軽トラックを用意し、オートスタンドにより、LP ガス車に充填します。

3.非常用衛星通信設備

電話・インターネットでの通信が困難になった場合、地方自治体等と連絡が取れる緊急用通信設備です。

他に、防災用毛布・寝袋・簡易トイレ・非常食・AED を随時整備しています。

いろいろな設備を整え、中核充填所の認定を受けました。岐阜県には現在 9 か所の中核充填所があります。災害時に地域内の中核充填所と協力し、非常事態への態勢強化をしていきます。お客さま、地域の皆さまに貢献できる会社を目指し努力しています。

卓　　話

平成 27 年 5 月 26 日

『 私の履歴書 』

安澤嘉崇会員

はじめに

入会して 5 か月。まだ私のこと、私の会社のことを知らない人が多いと思う。自己紹介を卓話とさせていただく。

カラオケ

カラオケとほぼ同じ時期に誕生した。カラオケに対する思い入れがある。カラオケのこれまでの歩みと合わせて話したい。

機械の稼動台数

ボックス 13 万台（9 千施設）、酒場・・・16 万台、旅館・・・2 万台弱（6 千施設）

その他市場（結婚式場、福祉施設等）8 万台弱⇒合計 40 万台

市場規模・・・6,000 億円

カラオケ参加人口・・・4,700 万人

社名のミニジュークの話＝カラオケの発明者の一人

8 トラ⇒ビデオ⇒通信⇒参入過多⇒2 メーカー時代⇒医療福祉分野へ

強大なメーカーとどう戦っていくか？　強大なメガチェーンとどう戦っていくか？

会社

会社は私が生まれる 12 年前。1960 年（昭和 35 年）の創業。

いくつかの転機があり、総じてラッキーがあったと思う。

①ビデオカラオケが誕生した時、ミニジューク本社から決断を迫られた

②私の大学時代に分社化

③ミニジュークが BMB に譲渡された（ビクター、クラリオンなら違っていた）

④30 歳でデジタルダーツに出会えた（年齢的に早すぎず、遅すぎず）

⑤エクシングとなった時にカラオケボックスをスタートした

自分自身

中学に入るまでは自宅がカラオケの営業所だった⇒身近にカラオケがあった

父親に遊んでもらった記憶が非常に強い⇒親孝行したいという自然な気持ち

結婚後、長女誕生まで・・・一番悩んだ時期

ダーツ事業との出会い⇒リーダーシップが身に付いた

カラオケボックスの運営⇒カラオケを楽しんでくれる人を見られる喜び

40 歳になってランニングにハマる自分⇒カラダとココロを燃やしてくれる

今の思い・・・①自分の回りの人を幸せにしたい

②子どもに何か伝え残したい

③人に喜ばれる仕事がしたい・・・フィットネス事業